

バンクーバー便り 29～『秋立ちぬ』

バンクーバー時間：2024年10月6日(日曜日)午後1時30分

日本時間：2024年10月7日(月曜日)午前5時30分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り 29 をお送りします。

今回は『秋立ちぬ』と題して、カナダの秋到来と恐縮ながら私の喜寿の祝いにあわせて雑感を述べたいと思います。

バンクーバーの夏は8月のみといってもよいでしょう。30°Cを超える真夏日は数えるほどしかなく、湿度も低くさわやかなそよ風の中に夏を迎えます。9月に入ると小雨日が徐々に増えてきます。朝夕は肌寒く、草の葉が朝霜でキラキラと輝きます。10月になると樹々が紅葉し始め、リスたちは冬ごもりの準備で草むらの中や塀の上をせわしく走り回っています。またカモメたちが公園の草原に集まってきて、遊歩道に緑の落とし物をばらまき道行く人にアイリッシュダンスを踊らせます。今年は昨年よりも秋の到来が早いように感じます。

10月2日は私の誕生日です。喜寿を迎えたこともあり、家内が多忙な看護勤務の中、娘と共に誕生日を祝ってくれました。また、カナダで知り合った友人家族が後日、誕生日の夕食会を開いてくれました。この日のご馳走はサーモンなどの手巻き寿司とおでん。日本では珍しくはないものですが、カナダでは日本の食材や調味料をそろえることからして簡単ではありません。ただ、ネタは極上で逆に日本では手に入りにくいかも。家族や親しい友人に囲まれて誕生日を迎えられることは本当に幸せだと実感します。喜寿は日本固有の祝いで室町時代に始まったといわれます。「喜」の草体「𠂔」が七十七と読めることで、別に「喜の字の祝い」とも呼ばれます。漢字の草体が七十七に似ていることはわかりますが、どうして喜寿なのか。僕の勝手な考えですが、今も昔も齢70の「古希」まで生きられることは稀なことで、さらに7年も生き長らえたことは真に「喜ばしい」に違いありません。

70台に入り同年代の友人知人の訃報を聞くことがあります。団塊の世代の平均寿命が50歳代ですから、70台まで生きることは長寿と呼べると思います。ご存じの方もいると思いますが、私の世代には『宇宙大作戦』(原題はStar Trek といいます)というSFテレビドラマがありました。未知の宇宙を目指して宇宙船Enterpriseが旅する壮大な物語で、Star Warsなど、その後のSF映画に大きな影響を与えました。このEnterpriseの副官兼科学主任として乗務するSpockというVulcan人がいます。Spockは特有の指サインをしてLive



Long and Prosper(長寿と繁栄を)という挨拶をします。Spock役 of 俳優 Leonard Nimoy 氏はユダヤ人で、子どものころに通ったユダヤ教会でラビの指サインから発案したそうです。

閑話休題。地球でもVulcan星でも長寿はめでたいことですから、私も喜寿を素直に喜びたいと思います。しかし少子高齢化が頭を過(よぎ)ると長寿を単純に喜んでよいのかと疑心暗鬼になります。不老長寿は秦始皇帝の時代から希求された人間の、否、生き物の本性です。だとすれば子どもが老年者の面倒を見るという古来の構図は変わら

なくてはなりません。それは、家族が高齢者を支える閉鎖的な支援ではない、新しい思想です。そして高齢者が若者たちと共に喜べる世界観に基づく知恵と努力が必要になります。もうすぐ燃えるような紅葉の季節を迎えるように、この開かれた良き時代の確かな到来を期待したいものです。

